

## NEWSLETTER

## CONTENTS

## TOPICS

- 1 ダイバーシティ推進センター長 就任挨拶
- 2 2024年度「女性研究者研究促進制度」採択者決定
- 3 公開講座「モノづくりチャレンジ」、「モノづくりチャレンジ・アドバンスト」を開催
- 4 オープンキャンパスにて女子学生向け座談会を開催
- 5 第10期女性技術者リーダー養成塾 開講
- 6 ダイバーシティ推進シンポジウム「共に創る未来へ」

## COLUMN

電気機械工学科 准教授 牛島達夫さんの読書案内  
「他者を感じる『やさしいヒト』へ」第2回

## TOPIC

## 1

## ダイバーシティ推進センター長 就任挨拶



ダイバーシティ推進センター長 吉田 江依子

本年度よりダイバーシティ推進センター長を拝命しました。皆様と共により良い環境づくりに尽力していく所存でございます。

当センターは、2014年に発足した男女共同参画推進センターを前身とし、女性研究者の活躍を支援する環境の構築に取り組んで参りました。2017年にはダイバーシティ推進センターとして進化し、キャンパス内で多様な価値観が共存する環境の実現に努めております。

大学におけるダイバーシティ推進の意義は、多様な価値観や意見、異なる立場の人々と触れ合うことで、一面的ではなく多面的に物事を捉える力を育むことにあります。このような多面的な見方が、技術開発の分野においても新しい技術やイノベーションの創出につながると考えております。

今後も、女性研究者支援制度をはじめとする各種取り組みにより、多くの女性が工学分野で活躍できる環境の整備を一層推進して参ります。また、時代に即したダイバーシティ環境の構築において本センターが果たす役割の重要性を認識し、魅力あるキャンパスづくりに邁進して参ります。今後とも、皆様のご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

## TOPIC

## 2

2024年度  
女性研究者研究促進制度 採択者決定

受託研究や民間企業との共同研究等につながる外部資金獲得に向けた支援として、2017年度に「女性研究者研究促進制度」を創設し、意欲ある女性研究者を対象に研究助成をしています。2024年度は6月に学内公募が行われ、選考委員会による審査を経て5名の女性研究者が採択されました。

氏名	所属	職位	研究課題
陳 暉	社会工学	助教	日本の現代建築における気候に適応する可操作な外皮要素の偶有価値に関する研究
丁 寧	情報工学	助教	ラケットスポットにおける試合ビデオ分析
武田はやみ	生命・応用化学	特任准教授	固体電解質材料加工の自動化による効率的なデータ収集
BHATTACHARJEE Udaratta	社会工学	特任助教	酸化還元活性担体としての絹フィブロイン繊維の必要性と重要性
岩崎祐子	社会工学	研究員	サイバーリスクファイナンス研究

TOPIC 3

公開講座「モノづくりチャレンジ」、  
「モノづくりチャレンジ・アドバンスト」を開催

2024年8月3日、4日の両日、女子中高生を対象に、3D CADと3Dプリンターを使って、ものづくりの発案から完成までの一連の流れを体験する「モノづくりチャレンジ」を本学11号館2階CAD室にて開催しました。

アンリツ株式会社 理事・CTO 野田華子氏（本学OG）を講師に、同社正田啓悟氏（本学OB）をチーフアシスタントに迎え、女子学生サポーターの支援を受けながら、中学1年生から高校2年生までの合計32名が、オリジナルグッズ制作に挑みました。

8月3日は、公開講座「モノづくりチャレンジ：3Dプリンターでオリジナルグッズをつくろう」を開催しました。3D CADに初めて触れる参加者が、基本操作を学習し、自身で考案したオリジナルグッズ



アンリツ株式会社  
理事・CTO 野田華子氏

のデザインをもとに、3Dプリンターの特性を考えながら設計を進めます。紙に鉛筆で描いたものをデジタルで立体的に作り替えていく作業に最初は苦戦しましたが、サポーターの学生に相談しながら、全員が、ハムスターハウスやアクセサリースタンドなど、思い描いたグッズの設計を完成させることができました。

8月4日の講座は、過去に「モノづくりチャレンジ：3Dプリンターでオリジナルグッズをつくろう」に参加した方を対象に「モノづくりチャレンジ・アドバンスト：3Dプリンターマスター講座」として3DプリンターメーカーのPrusa Research社の協賛により開催しました。



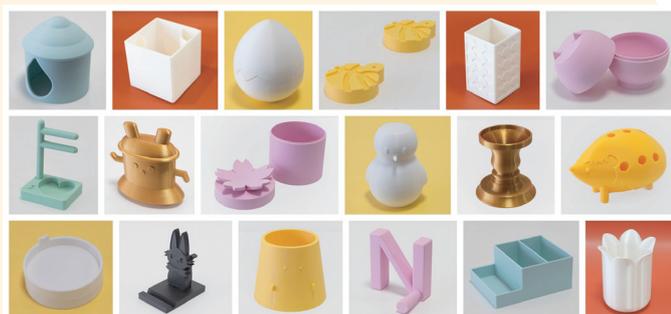
学生サポーターの自己紹介、作品紹介の様子

「モノづくりチャレンジ・アドバンスト」は、3D CADの操作だけではなく、プリントに必要なスライサーの役割や操作についても学び、実際に自分が3Dでモデリングしたグッズをプリントして、完成品を手にするところまでを経験する内容です。3D CADの操作を思い出すことから始めた参加者も、講師やアシスタント、サポーターの学生にアドバイスをもらって、実際に使用する状況やプリントの効率を考えてサイズや形状を修正したり、デザインを工夫しながら、ランプシェードやタブレットスタンドなど、自身で設計した作品を自分の力で完成させることができました。



オリジナル作品のモデリングをする受講生

イベント終了後のアンケートでは、参加者から「わからないことがあっても自分でいろいろ試すことができたのですごくよかったです」、「前回よりも自分の力でできて、とてもうれしかった」、「自分で設計したものが形になる様子を見るのはとても嬉しい気持ちになった」という声が寄せられました。



8月3日公開講座「モノづくりチャレンジ」受講者の作品



8月4日「モノづくりチャレンジ・アドバンスト」の作品



## TOPIC 4

## オープンキャンパスにて女子学生向け座談会を開催

2024年6月1日（土）、8月1日（木）、オープンキャンパスにて、女子学生向け座談会を開催しました。参加者は、希望学科ごとに8つのグループに分かれて座り、女子学生団体彩綾～ SAYA ～のメンバーを中心とする名工大在学中の女子学生が、和気藹々とした雰囲気の中、高校生の質問に答えました。

高校1、2年生の参加者では、高校時代の部活と勉強の両立、塾に行っていたかどうか、おすすめの参考書などの話題が中心となりました。高校3年生の参加者からは、志望校決めや時期や大学選びの軸、秋からの模試の活用方法など、受験生ならではの具体的な質問が多く寄せられました。在学の女子学生は、将来エンジニアとして直接学んだことを活かせるような学科を選んだという進路選択の視点や、比較的女子が少ない環境だからこそ仲良くなれるという日々の実感など、率直に思いを語っていました。

参加者からは「フレンドリーに話していただいたので、知りたい事を知れた」、「先輩方の入試方法や一日の過ごし方、研究内容、大学の説明に加え、アルバイトや人間関係についても相談でき、大学生活の楽しさや大変さを実感しました」、「就職を見据えたコース選択を教えてもらえて、学科を選択する目を養うことができました」などの感想が寄せられました。



## TOPIC 5

## 第10期女性技術者リーダー養成塾 開講

製造業に勤めている女性技術者を対象に、技術者として長く活躍し続けるために必要なスキルを学び、長期的視点でキャリアをデザインする機会を提供する「女性技術者リーダー養成塾」が第10期を迎え、8月23日に入塾式および第1回講座が行われ、22社から24名の女性技術者が出席しました。入塾式は、ダイバーシティ推進センター加野泉准教授の進行のもと開会し、吉田江依子副学長・ダイバーシティ推進センター長が開講の挨拶をしました。

第1回は2つの講座が開催されました。午前中に行われた株式会社eight代表取締役・2級キャリアコンサルティング技能士の鬼木利瑛氏によるキャリアデザイン講座「自分とチームを信じてキャリアビジョンを描こう」では、冒頭で、受講生が一人ずつ自己紹介を行い、受講の動機や、最近の関心事について話しました。講座では、「キャリア・アンカー」の手法を用いた自己理解のワークを行い、価値観や自分軸、強みについて自己分析し、グループで結果を話し合いました。ディスカッションを通して、同じ技術者同士であっても働くことについての価値観は多様であることを実感的に理解しました。



午後からは、株式会社光機械製作所 代表取締役社長 西岡慶子氏（名古屋工業大学 客員教授）による塾長講義「アフターコロナに向けたキャリアラダーの展望と実践」が行われました。日本企業の国際競争力の推移や、日本の職人文化に触れながら、プロフェッショナルであることについて多角的に考える視点を示されました。その後、講義の内容を踏まえて、「どのような試みがあれば／進めば、日本企業はもっと活性化するだろうか」というテーマで、ディスカッションを行いました。後半の講義「私の歩みと光機械製作所」では、西岡塾長の半生をたどりながら「プロ意識に徹すること」、「天職」をキーワードにお話しされました。最後に、変化を見据えた上でのキャリアパス、キャリアラダーの考え方についてグループディスカッションを行い、第一回講座は終了しました。



## 受講者の声

- ・男性よりも自他の変化にさらされやすい女性は、自分に軸が無いとその変化によるストレスが大きいのしかかります。それら乗り越えるためのキャリアアンカーの存在を学べたことは大きな収穫でした。
- ・世界と比べた日本の現状を全く知らなかったのが純粋に勉強になったとともに、自分の仕事、自分の会社、自分の業界だけでなくもっと広い視野をもって物事をとらえていく必要があると感じました。



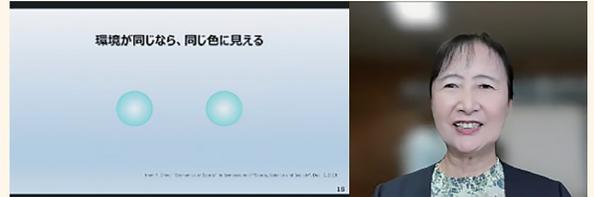
TOPIC 6

ダイバーシティ推進シンポジウム 「共に創る未来へ」

2024年9月18日、名古屋工業大学ダイバーシティ推進シンポジウム「共に創る未来へ」をオンラインで開催しました。

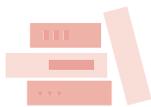
本シンポジウムは、工学人材の多様性促進の意義を学び、課題を共有することを目的とするもので、学長はじめダイバーシティ推進委員会委員の他、教職員、学生等が参加しました。

初めに、主催者を代表して小畑誠学長が挨拶し、本学のダイバーシティ推進の理念が紹介されました。続いて行われた講演では、講師に、学校法人日本大学常務理事・特定非営利法人ウッドデッキ代表理事の渡辺美代子氏を迎えて「多様性が拓くイノベーション」と題してお話しいただきました。



渡辺先生は、多様性がなぜ重要かを明確に説明された後、ジェンダー・イノベーション、男性の危機、人口バランスというジェンダーを巡る重要な課題を多岐に渡って取り上げられ、二項対立的に捉えられがちなジェンダーの問題に対して多角的に理解を深める視点を示されました。

講演後に行われたダイバーシティ事業報告では、ダイバーシティ推進センターの加野泉准教授より、今年3月に公開された事後評価で最高評価のS評価を獲得した文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）」の取組と成果の振り返りと、新たに進めている環境整備について説明がありました。



電気・機械工学科 准教授 牛島達夫さんの **読書案内** 他者を感じる「やさしいヒト」へ

第2回

今回紹介する本は、川内有緒著『目の見えない白鳥さんとアートを見にいく』です。著者は友人の紹介で全盲の白鳥さんの美術鑑賞にアテンドすることになりました。本書ではそこで気づいたことが綴られています。また楽しい現代アート鑑賞ガイドにもなっています。

今年4月から事業者による障がいのある人への合理的配慮の提供が障害者差別解消法改正で義務化されました。これは障害者権利条約（2006年12月国連採択、2014年日本批准）に対応して整備されたものです。合理的配慮は英語でreasonable accommodationとなっています。後の英単語ですぐに思い当たるのは旅行の宿泊のことでしょう。つまり居場所を用意するという点に興味があります。英語の辞書では意味としてreconciliation（仲直り）を挙げているものもあります。合理的配慮とは、互いの違いを認め合い、相応しい居場所を用意することではないでしょうか。

本の中では、著者らが白鳥さんに配慮される場面が出てきます。どんな場面か想像しながら是非この本を読みましょう。本を読んだ後には是非、キャンパス内のアート作品を白鳥さんと巡ってみましょう。それが本学の合言葉「心で工学」の涵養につながるのではないのでしょうか。



集英社インターナショナル 2021/9/3 初版刊行、336ページ